

平和を希求 思い発信

首長9条の会総会と集い

自治体の首長との経験者が12日、東京都内で行われました。総会は、日本維新会の総会と市民のつどいの合併で開催されました。総会は、日本維新会の総会と市民のつどいの合併で開催されました。

改憲勢力が国会発議が必要な3分の2の議席を両院で確保し、改憲運動を加速化させていることに懸念を表明。自民党と統一協会が憲法の条への自衛隊明記などを主張していることを批判し、草の根の運動と広く連携しての条を擁護する運動

を進めるとの活動方針とアピールを採択しました。

同会は12日現在で現職11人を含む1,160人の会員を擁し、所属や立場・信条の違いを超えて「憲法9条の擁護」の一息で力を合わせています。

共同代表の川井貢一・元宮城県田石市長は、「首長は命を賭しても住民の命と安心を守らなければなりません。そのためには憲法の条は絶対に必要です」と訴えました。

九条の会事務局長の小森陽一・東京大学名誉教授は、「安倍政権の敷いた大軍拡路線に基づく、自衛隊を戦争のできる軍事組織に転換させる岸田政権の政策を何としても阻止して、岸田政権を打倒していく運動を取り組む必要がある」と強調しました。

「憲法・地方自治・そして草の根の共闘」のテーマで現職首長が発言。共同代表の松下玲子・東京都武藏野市長は、自治体として取り組んだ平和に関する活動を報告し、「地方自治体の



総会と市民のつどいに参加した「全国首長9条の会」の人たち(12日、東京都内)

首長としても、平和を希求する思いをしっかり発信していました。「憲法の平和の精神を自治体からという気持ちで、「首長は命を賭しても住民の命と安心を守らなければなりません。そのためには憲法の条は絶対に必要です」と訴えました。保坂履人・東京都世田谷区長は、ジョンソン平等を否定する主張を繰り返す統一協会と地方議員の癒着の問題を指摘し、これを機に一人ひとりが人権を取り戻していく行政を実現するべきだと述べました。

総会とつどいにはオンラインを含めて72人が参加。憲法学者である高良鉄美参院議員(沖縄の風)が参加しました。